



古い倉庫に うずもれていた宝物

佐野亮平くんは、古い農業機械が大好きな大学生。友だちにも近所の人にも有名で、「テラー少年」とか「メトラ」と呼ばれている。ある日、佐野くんが山あいに住んでいる母方のおじいちゃんの家に遊びに行ったときのこと。

「おい、ほこそこにおん(俺)の部落の共同の小屋があるけん、そんな中見たこんあるか?」

「ないけど?」

「そんなに、昔、部落で共同で買った農機具や何かがまだへえつ



テラーで田んぼを耕す佐野くん

てる(入ってる)かもしれんど」「どうして今まで教えてくれなかったの!!(懐中電灯とカメラを盗してすぐに見に行く準備)」

「どれ、ちよっくら見に行ってみるじゃん(見に行ってみよう)」50年以上前に住民たちが共同で建てた農機具小屋。「もしかしたら発動機や脱穀機なんかがあるかも……」と想像がふくらみ、思わずニヤニヤ。

いかにも「昔の小屋」といったたたずまいに息をのみつつ、中に潜入してみる。奥のほうにうずもれていたのは古びたテラー(テ

「寄合い(地区の集まり)でゆずってくれるか聞いといて!」数日後、おじいちゃんからOKの電話がきた。

「ヤッター!! 友だちを誘って、引っ張り出すのを手伝ってもらおう、そばにあったアタッチメントはどんなものかな……想像しただけでワクワク、ソワソワして夜も眠れない! 引き上げてきた後もホコリだらけで動かない機械を分解したり部品をつくったり……楽しくて時間も忘れて没頭してしま

は、なににもかえがたい感動でいっぱいになるのだ。

部活がわりに、 農機屋さん通い

古い農業機械が好きになった原点は、一緒に住んでいた父方のおじいちゃん。小さいころ、テラーを運転するおじいちゃんの隣に、ちよこんと乗せてもらうのが大好きだった。カーブを曲がるとき、すごく大きくハンドルを切るようすがたまらなくカッコよかった。運転席からみた、ゆっくり、ゆっ

古い農機具に夢中!

毎日、時間も忘れるくらい機械いじりに没頭。頭の中は、機械のことでいっぱい!

DATA 山梨・甲府市 佐野亮平くん(23歳)

所属:都留文科大学文学部比較文化学科4年

家族構成:父、母、妹

フィールド:田んぼ50a、自給畑、庭、作業場(車庫)

古い農機具コレクション:発動機25台、テラー30台(おおよそ。日々増加中)、トラクタ3台、農民車2台、消防ポンプ、脱穀機、縄ない機、わら打ち機など



3歳の頃、おじいちゃんと



13歳の頃。耕うん機で乗りものをつくって、庭の中を走ってあそんだ